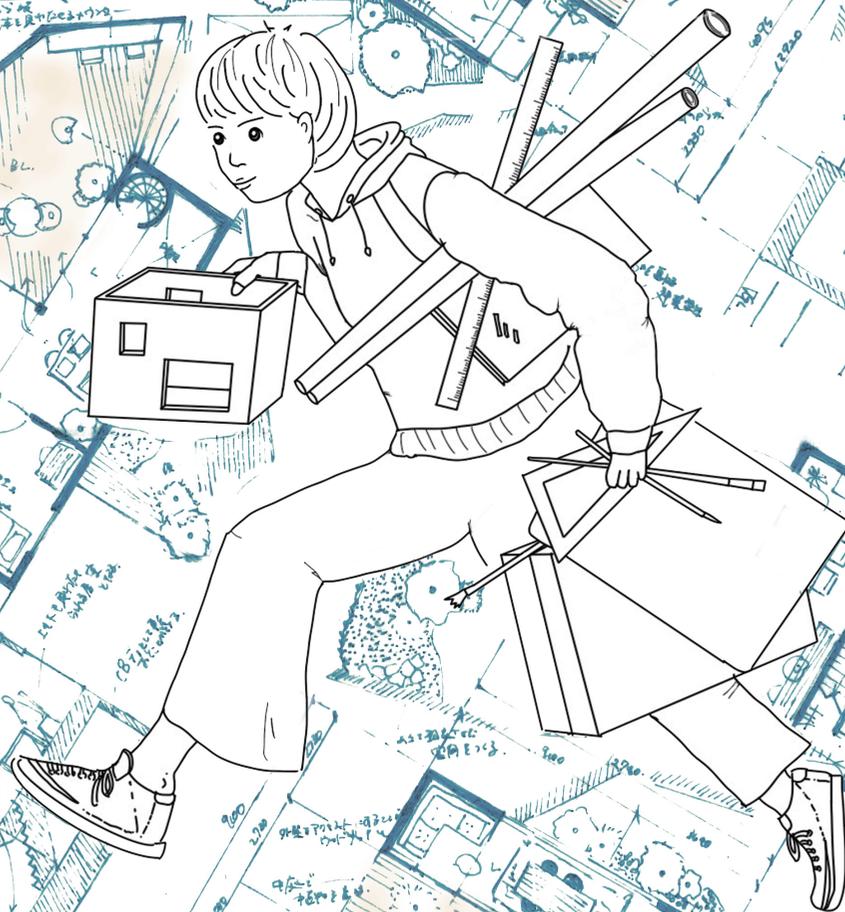


DIPLOMA 2025



DIPLOMA2025

卒業作品集

活動報告



全国専門学校建築教育連絡協議会

CONTENTS 目次

ご挨拶

- 02 全国専門学校建築教育連絡協議会 会長 白井 雅哲
全国専門学校建築教育連絡協議会 役員一覧

活動報告

- 03 定例総会
04 在籍生活動発表会
05 創立30周年記念
06 秋季研修会
07 POSTER CONTEST
08 専門学校卒業作品展示会

卒業作品

- 09 麻生建築&デザイン専門学校
10 岡山理科大学専門学校
11 日本工科大学校
12 中央工学校OSAKA
13 修成建設専門学校
14 大阪工業技術専門学校
15 東海工業専門学校金山校
16 新潟工科専門学校
17 浅野工学専門学校
18 日本工学院八王子専門学校
19 日本工学院専門学校
20 町田デザイン&建築専門学校
21 専門学校東京テクニカルカレッジ
22 読売理工医療福祉専門学校
23 青山製図専門学校
24 中央工学校
25 国際情報工科自動車大学校
26 青山建築デザイン・医療事務専門学校
27 日本工学院北海道専門学校

会員校/協賛企業・団体

- 28 全国専門学校建築教育連絡協議会 会員校一覧
29 協賛企業・団体一覧



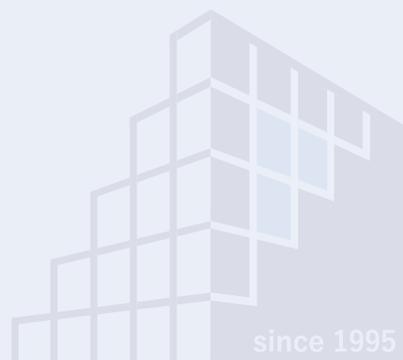
全国専門学校建築教育連絡協議会
会長

白井 雅哲

ここに、本会「DIPLOMA 2025 卒業作品集・活動報告」をお届けいたします。
本誌は、本年度6月に開催した「第25回専門学校卒業作品展示会」に出品された会員各校の作品ならびに本会のこの1年間の取り組みを取り纏めたものです。
展示会の開催ならびに本誌の発行にあたり、協賛企業・団体をはじめ関連各所の皆様のご理解とご協力をいただきましたこと、この場を借りて厚く御礼申し上げます。また、本展示会は本年度で25回目を迎えることとなりました。四半世紀にわたり継続して開催できましたのも、ひとえに皆様のご支援の賜物と重ねて感謝申し上げます。
さて、時代は、少子化、大学全入、理系離れ等、工業分野の専門学校にとって大変厳しい状況ですが、こうした時節だからこそ逆に、職業教育としての建築教育の意義が明確に示せるものと考えています。ただしそのためには、会員各校の教育の質向上と、その総和としての本会の活動のさらなる充実が不可欠だとも考えています。今後も、会員各校が互いにリスペクトし合いながら切磋琢磨し、また一致団結し、専門学校の建築教育の意義を高めていく所存です。
こうした姿勢にご理解を賜り、今後も会員各校の教育活動ならびに本会の運営に、引き続きご協力をいただけますようお願い申し上げます。
それでは、小誌ではございますが、我々の取り組みをご高覧いただけますと幸いです。

役員一覧 2025年度(令和7年度)

役職名	氏名	所属
会長	白井 雅哲	専門学校東京テクニカルカレッジ
副会長	新井 長秀	青山製図専門学校
	見邨 佳朗	修成建設専門学校
幹事 常任幹事	宗林 功	大阪工業技術専門学校
	中村 聖吾	中央工学校OSAKA
	荒居 秀征	東海工業専門学校金山校
	生川 清孝	中央工学校
幹事	原 眞佐也	浅野工学専門学校
	小川 貴之	読売理工医療福祉専門学校
	原 智樹	筑波研究学園専門学校
	田中 卓	広島工業大学専門学校
	宮野 人至	青山製図専門学校
	渡部 和久	新潟工科専門学校
	山田 俊之	日本工学院八王子専門学校
	原 将史	麻生建築&デザイン専門学校
事務局(会長校)	野上 和裕	専門学校東京テクニカルカレッジ
監事	山野 大星	日本工学院八王子専門学校
	松田 正之	中央工学校



2025年度(令和7年度)定例総会

2025年度(令和7年度)定例総会が、6月7日(土)に大阪工業技術専門学校で開催されました。オンライン併用で18校が参加し、各議案が審議されています。併せて、第3回 在校生活動発表会をオンラインで実施しました。校舎見学の後、情報交換を目的とした情報交換・懇親会を実施し、さらなる親睦及び交流の機会としています。

日時: 2025年(令和7年)6月7日(土)13:00~16:50

会場: 大阪工業技術専門学校

参加: 参加校 計18校(会場14校・オンライン4校)・委任状10校

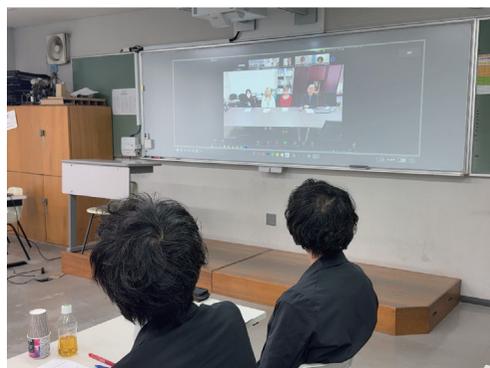
- 議案: 第1号議案 2024年度(令和6年度)事業報告
- 第2号議案 2024年度(令和6年度)決算報告
- 第3号議案 2025年度(令和7年度)事業計画(案)
- 第4号議案 2025年度(令和7年度)収支予算(案)
- 第5号議案 2025年度(令和7年度)
2026年度(令和8年度)役員改選(案)



在校生活動発表会

第3回 在校生活動発表会

各校の在校生による活動発表の場として、「在校生活動発表会」を実施しています。令和5年に初めて開催され、今回は第3回目の発表会となります。作品発表を通じて、在校生の学びの機会とするとともに、情報共有の場としての役割も期待されています。発表会では活発な質疑応答が行われ、毎回、有意義な内容となっています。



日時：2025年（令和7年）6月7日（土）
14：30～15：25

会場：大阪工業技術専門学校（オンライン）

発表①「懸け橋」
新潟工科専門学校

発表②「安藤忠雄展 -YOUTH」模型制作プロジェクト
修成建設専門学校

発表③「人がつくるもの」
大阪工業技術専門学校

創立30周年記念

2025年度(令和7年度)定例総会が、大阪工業技術専門学校を会場に開催されました。また、同日に会場をホテルプリムローズ大阪に移し、創立30周年を記念した懇親会が行われました。懇親会では功労者表彰として、創立20周年以降の歴代会長である、三上孝明 元会長、山野大星 元会長、松田正之 前会長に対し、感謝状と記念品が贈呈されました。また、新旧役員挨拶をはじめ、今後のさらなる発展を目指して、親睦及び交流の機会としています。

日時: 令和7年6月7日(金) 17:30~19:30
場所: ホテルプリムローズ大阪 高砂の間
大阪府大阪市中央区大手前3丁目1-43



会場風景



福田益和 理事長(大阪工業技術専門学校)挨拶



白井雅哲 新会長(専門学校東京テクニカルカレッジ)挨拶



記念品贈呈



功労者表彰



参加: 40名(14校)
中央工学校
青山製図専門学校
専門学校東京テクニカルカレッジ
日本工学院専門学校
日本工学院八王子専門学校
浅野工学専門学校
新潟工科専門学校
東海工業専門学校金山校
大阪工業技術専門学校
修成建設専門学校
中央工学校OSAKA
広島工業大学専門学校
麻生建築&デザイン専門学校
福岡建設専門学校
(都道府県順)



2024年度(令和6年度)秋季研修会

令和6年11月9日(土)に京都府大山崎町の「聴竹居・大山崎山荘美術館」に訪れ、秋季研修会として見学会を実施いたしました。ご担当者様からの説明により、建築的知見や歴史的背景を知ること、勉強会として貴重な機会となりました。見学後、教育懇談会を開催し教育活動報告や情報交換により懇親を深めています。

日時:2024年(令和6年)11月9日(土)13:00~16:30

場所:聴竹居・大山崎山荘美術館
京都府乙訓郡大山崎



参加校:参加会員校 計13校(26名)
青山建築デザイン・医療事務専門学校
中央工学校
青山製図専門学校
専門学校東京テクニカルカレッジ
日本工学院専門学校
日本工学院八王子専門学校
浅野工学専門学校
東海工業専門学校金山校
大阪工業技術専門学校
修成建設専門学校
中央工学校OSAKA
広島工業大学専門学校
麻生建築&デザイン専門学校
(都道府県順)

第25回 専門学校卒業作品展示会

DIPLOMA 2025

2025年6月16日(月)～6月28日(土)
9:30～17:30 入場無料 初日のみ13:00から / 最終日のみ13:00まで

●主催 東京都港区3-50-20 建設会館3階ギャラリー
●主催者 全国専門学校建築教育連携協議会
●問合せ 全国専門学校建築教育連携協議会事務局(中央工学校) TEL.03-906-1211(代)

●協賛校 青山建築デザイン・医療事務専門学校、中央工学校、青山製図専門学校、遠東理工医療福祉専門学校、専門学校東京テクニカルカレッジ、新田ワイルド建築専門学校、日本工科大学専門学校、日本工科大学八王子専門学校、東海工業専門学校、新潟工科大学、新潟工業専門学校、東海工業専門学校金山校、大東工業技術専門学校、修成建設専門学校、中央工学校OSAKA、日本工科大学、青山建築デザイン専門学校

●協賛 青山建築デザイン・医療事務専門学校、中央工学校、青山製図専門学校、遠東理工医療福祉専門学校、専門学校東京テクニカルカレッジ、新田ワイルド建築専門学校、日本工科大学専門学校、日本工科大学八王子専門学校、東海工業専門学校、新潟工科大学、新潟工業専門学校、東海工業専門学校金山校、大東工業技術専門学校、修成建設専門学校、中央工学校OSAKA、日本工科大学、青山建築デザイン専門学校

●協賛 青山建築デザイン・医療事務専門学校、中央工学校、青山製図専門学校、遠東理工医療福祉専門学校、専門学校東京テクニカルカレッジ、新田ワイルド建築専門学校、日本工科大学専門学校、日本工科大学八王子専門学校、東海工業専門学校、新潟工科大学、新潟工業専門学校、東海工業専門学校金山校、大東工業技術専門学校、修成建設専門学校、中央工学校OSAKA、日本工科大学、青山建築デザイン専門学校

ポスターコンテスト

「第25回 専門学校卒業作品展示会」のポスターコンテストには、会員校10校から学生作品124点の応募がありました。審査は、会員校13校の教員31名による投票により行われ、最優秀賞1点・優秀賞3点・入選6点が選出されました。

応募校：応募作品 124点 参加 10校 *応募順

新潟工科大学
東海工業専門学校金山校
中央工学校OSAKA
中央工学校
青山製図専門学校
専門学校東京テクニカルカレッジ
修成建設専門学校
日本工学院専門学校
青山建築デザイン・医療事務専門学校
日本工学院八王子専門学校

最優秀賞

小林 奈央
(青山製図専門学校)

優秀賞



鈴木 咲
(青山製図専門学校)



佐久間 叶乃
(中央工学校)



鶴丸 力都
(日本工学院八王子専門学校)

入選



齊藤 香凛
(新潟工科大学)



山浦 美咲
(新潟工科大学)



関山 愁人
(東海工業専門学校金山校)



神尾 歩
(中央工学校)



宮下 秋
(青山製図専門学校)



亀山 未遥
(青山製図専門学校)



第25回 専門学校卒業作品展示会

第25回を迎えた「専門学校卒業作品展示会」には、会員校16校が参加し、卒業作品のプレゼンテーションボードや建築模型が展示されました。また、ポスターコンテストの入賞作品および応募作品もパネル展示されました。最終日には、各展示校の教員による作品説明会も実施され、情報共有の場としています。

日時：2025年(令和7年)6月16日(月)～
6月28日(土)／9:30-17:30 (入場無料)

会場：建築会館 1階ギャラリー
(東京都港区芝5-26-20)

参加：参加校16校

参加校16校

麻生建築&デザイン専門学校
日本工科大学校
中央工学校OSAKA
修成建設専門学校
大阪工業技術専門学校
東海工業専門学校金山校
新潟工科専門学校
浅野工学専門学校

日本工学院八王子専門学校
日本工学院専門学校
町田デザイン&建築専門学校
専門学校東京テクニカルカレッジ
読売理工医療福祉専門学校
青山製図専門学校
中央工学校
青山建築デザイン・医療事務専門学校
※卒業作品 掲載順



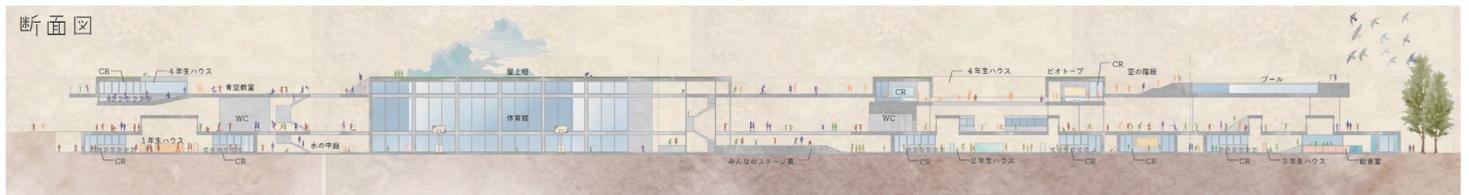
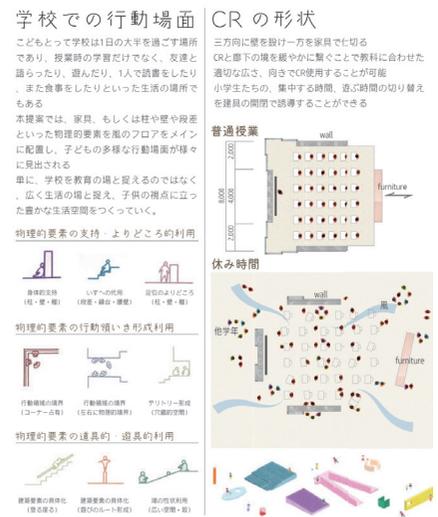
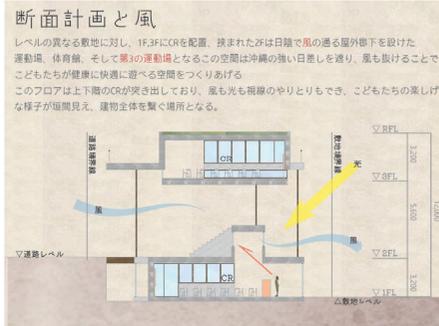
うちなーキッズの風ものがたり

麻生建築&デザイン専門学校 建築工学科
嘉数 星那



うちなーキッズの風ものがたり

緑の豊かさ、日差し、日陰と風の気持ちよさ、空と海の青さや広さ、自然のつくりだす環境と共に過ごしてきた沖縄の小学生。それは人間のつくる環境よりも心地よく、記憶に値することになっている。もはや建築の存在意義とはなにか、剥き出しの自然の中では生存できない私たち。自然環境を教育の場という建築の見方につけ、自然よりも心地よく記憶に値する環境を実現させる。建築の空間自体がこどもの思い出と記憶に残り続けるうちなーキッズたちの風ものがたりを提案する。



[CONCEPT]

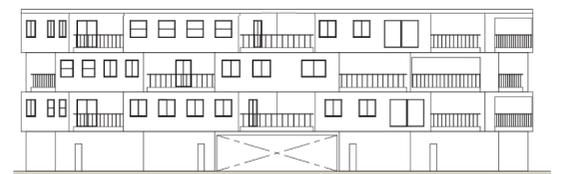
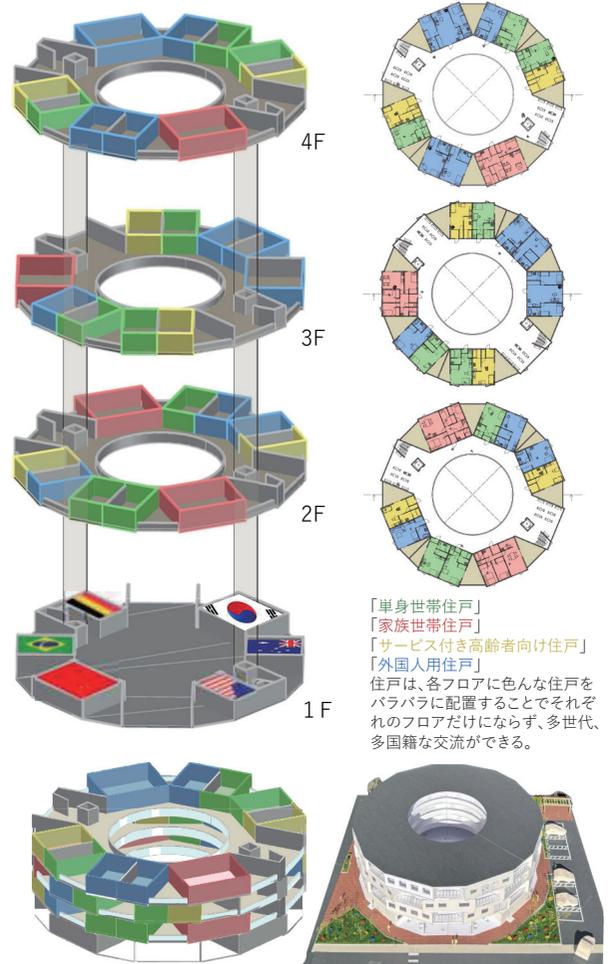
緑の豊かさ、日差し、日陰と風の気持ちよさ、空と海の青さや広さ、自然のつくりだす環境と共に過ごしてきた沖縄の小学生。それは人間のつくる環境よりも心地よく、記憶に値することになっている。もはや建築の存在意義とはなにか、剥き出しの自然の中では生存できない私たち。自然環境を教育の場という建築の見方につけ、自然よりも心地よく記憶に値する環境を実現させる。建築の空間自体がこどもの思い出と記憶に残り続けるうちなーキッズたちの風ものがたりを提案する。

[作品・制作データ]

建築用途	小学校
敷地所在地	沖縄県那覇市楚辺2丁目1-1
敷地面積	14,000㎡
制作期間	6ヶ月
使用ソフト	ArchiCAD Illustrator Photoshop

食でつながる場所 ～多世代、多国籍がつくる集合住宅+α～

日本工科大学校 環境建設工学科/建築コース
 臼井 一晟・藤田 春人・古田 匠



[CONCEPT]

国内では少子高齢化など世代間の課題が、介護や働き方、子育て、教育といったコミュニティの問題として顕在化している。また、外国人が増加する中、住まいのあり方も変わろうとしている。こうした課題を乗り越え、多世代、多国籍をテーマとした、新しい価値を生み出す集合住宅を設計した。多世代、多国籍は「食」だと考えた。「食」にはいろんな歴史、文化が多く詰まっている。「集合住宅」×「飲食店」として、「誰もが食を通して色んな人と繋がれる集合住宅」を考えた。1階は飲食フロアとし、全フロアに交流空間を設けることで食事しながらコミュニケーションをとれるようにした。飲食店や各階の住戸を囲い向かい合わせ個々の繋がりを感じられるようにした。また、中央の吹き抜けて建物の解放感をもたせ、全フロアが見渡せる。「直接的」、「間接的」に多世代、多国籍な繋がりが生まれるような集合住宅を提案する。

[作品・制作データ]

建築用途 複合コミュニティ施設
 敷地所在地 兵庫県姫路市飾磨
 敷地面積 2,200.00㎡

制作期間 6ヶ月
 使用ソフト Jw_cad Paint
 Microsoft PowerPoint

中央工学校OSAKA 住宅デザイン科 住宅設計コース
大面 俊哉



[CONCEPT]

自然の風景に身を置くことは、心に柔らかく豊かな感覚を与えてくれると思います。しかし、最近では子どもたちがスマホに触れる時間が増えたことで、自然と関わる機会が減ってきていると感じます。この作品は、五感で自然を感じることができるような自然と共生する共同住宅です。各住戸の角度を少しずつずらして配置することで、視覚的な楽しさを生み出し、五感を刺激するよう工夫しています。また、住戸ごとに植栽スペースを設けており、屋外でも室内でも自然を身近に感じられるように計画しました。暮らしの中で自然とつながり、心が豊かになるような住まいを目指しています。

[作品・制作データ]

建築用途	共同住宅
敷地所在地	奈良県奈良市
敷地面積	1,739.98㎡(5戸)
建築面積	504.81㎡(5戸)
延べ面積	519.99㎡(5戸)

制作期間	5ヶ月
使用ソフト	ArchiCAD Photoshop Illustrator Twinmotion

REVIVE ARCHITECTURE 生き返らせる建築

修成建設専門学校 建築学科 意匠設計コース
KAUNG KHANT SI THU



Master Plan

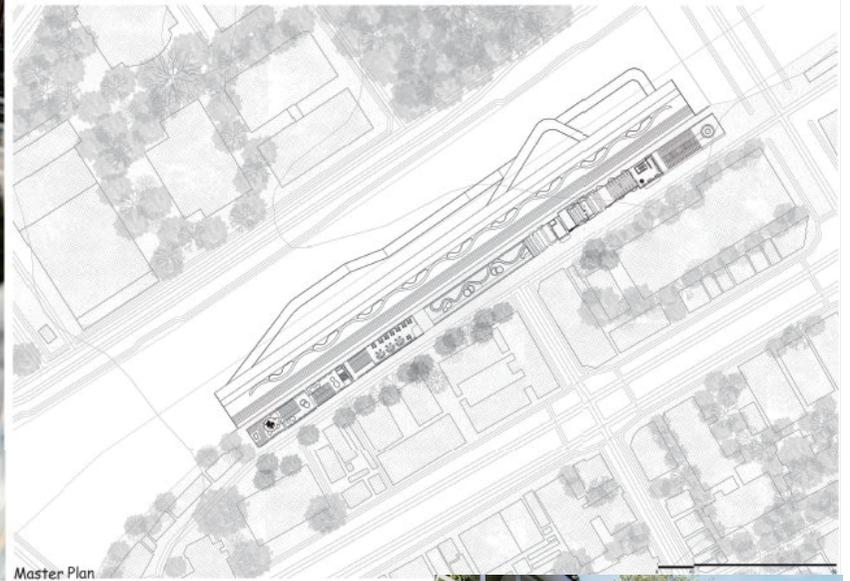
REVIVE ARCHITECTURE 生き返らせる 建築

大阪市は昔水の都と呼ばれ、川を利用して米や木材その他の商品を運ぶ、売するために土佐堀川を主土佐商人たちが利用しながら川のほうを向かってコミュニティーが出来た。現代の都市建建物ではその川を壁で覆われ、川に向かって人々が集まる楽しいコミュニティも減りつつ、既存している建物も建てる直しや、使わないまま存在している。その人の流れが少ない穴場になってデッドスペースであることを解決にしたいと思います。

カウンタートシス



主土佐商人たち



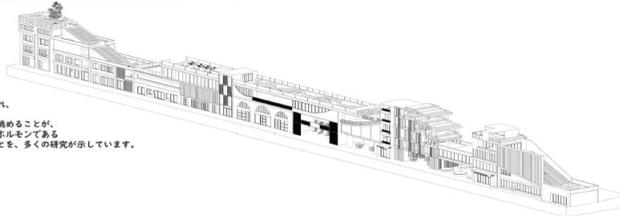
Master Plan

Concept design

コンセプトデザインとして敷地をArea1, Area2, Area3, Area4 と4つのエリアに分けて、Area1とArea2は建て直して、Area3, Area4は既存している建物をリフォームし、屋上スペースを作り、川に向かってのデザインを意匠にして利用する人々の色々な段差がある所から川を眺めながら休憩するスペースを作る。

緑があるスペース

水の周りで時間を過ごしたり、水を眺めたりすると、ストレスが軽減され、血圧が下がり、気分が良くなります。森林で運動すること、単に水を眺めることが、血圧を下げるだけでなく、ストレス回復ポイントである。コルチゾールやアドレナリンを下げることを、多くの研究が示しています。



Concept Diagram



[CONCEPT]

卒業制作を通して、建築とは単に空間を創造するだけでなく、体験や相互作用を形作るものだ気づきました。私のデザインは、Revive Architecture(テーマ)を探求し、都市構造における建築の役割を再定義することを目的としている。

このデザインのコンセプトは、長い間放置されてきた、歴史的に非常に重要な建築を蘇らせることを目的としています。反復とフィードバックのプロセスは、ユーザーの視点と適応性の重要性を教えてくださいました。このプロジェクトは、私の問題解決能力を強化し、今後の建築活動にも活かしていきたいと考えています。

[作品・制作データ]

建築用途 水辺空間の再活用
敷地所在地 大阪府大阪市土佐堀川

制作期間 6ヶ月
使用ソフト AutoCAD, sketchup, D5 Render, Illustrator, Photoshop

Yongo停 ～人が集まる場を育てる～

大阪工業技術専門学校 建築学科 設計専攻 意匠コース
松崎 康太郎

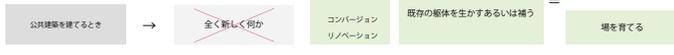
○木を植えるように

建築も木を植えると同様に育てるのではなく、植えることを断念する。樹木建築が使われなくなり用途を失っていき、建物も木のように水や日光を与えず入れをいくことで再び人が集まる場として育っていくと考える。

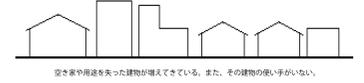


○空き家が問題となっている現在、建築はもう既に十分にあると書けることもできる現在。

みんなの感情的なパブリック空間を作るときに、まるっきり新しい何かと言うよりは、その土地を記憶しているものに響いているような記憶、またそれを真実を押しながら作ることはできないだろうか？



街のランドスケープの現状



○しいたけ

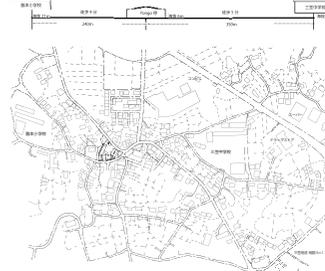
山というものを建物の素材としてとらえたと、そこで行うしいたけ栽培をプログラムしたとかながる。しいたけを育てることは同時に山を育てる。自然の循環の中しいたけを育てる行為が自然の山の手入れをする。建ちあがりたてのしいたけ、そうやって、自然を育てていくのだろうか？



○近所地域の集



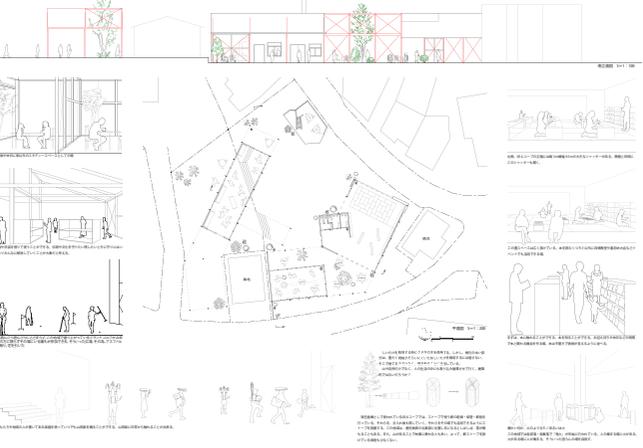
○針葉樹地



伝統芸能 山田家 × 地域の人が 日常的に使う場 → 目的地 生活拠点中心

Yongo停

～人が集まる場を育てる～



[CONCEPT]

そこに在ったものを無かった事にし、単に公園化し、人の集う場にするという話ではない。一度建ったのであれば、責任があり簡単に壊して良いものではなく永続的な状況を目指すべきだと思う。人々の記憶が残っている事が、地域の人や環境に受け入れられる要因になる。また、建築自体の古さやボロさは外から来た誰にも懐かしさを感じさせる。これから地方を中心とした街や村はどんどん小さくなっていく中、それらを受け入れ、小さくなっていく未来と小さくなる方法をデザインできないかと考えた。結果的に緑に覆われようとも、プロセスが変われば見え方も変化する。緑が成長したら切り倒すのではなく、適度な剪定や補強と言った手入れをし、終いには土へ戻っていくような建築が考えられないだろうか？在ったものが無くなったとしても、あの寂しい怖い見え方ではなくなる。育て続けた建築は場としても醸成されている為、例えば建物が無くとも人が集まる場になり得る。

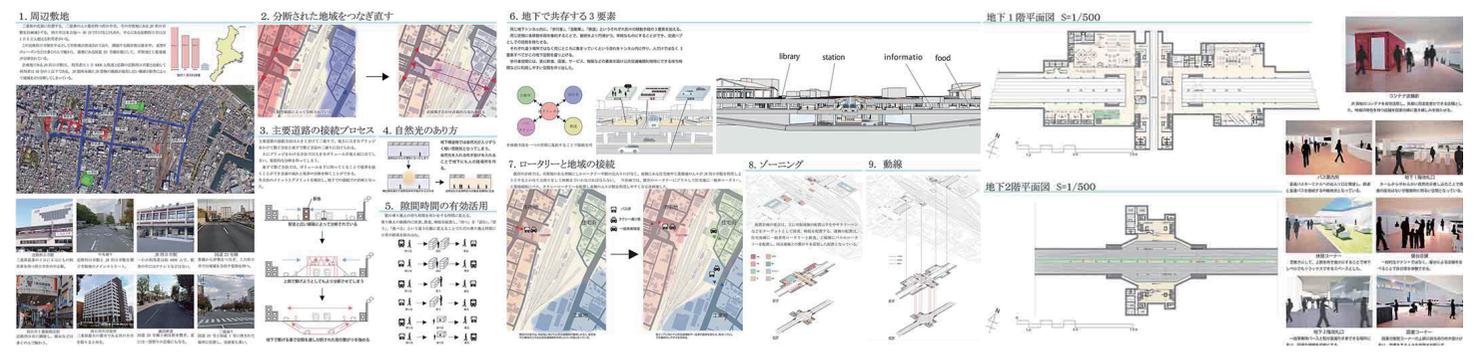
[作品・制作データ]

建築用途 複合商業施設
敷地所在地 鹿児島県阿久根市脇本地区

制作期間 4ヶ月
使用ソフト AutoCAD ArchiCAD
Jw_cad Photoshop
Illustrator

流れをわたるかけ橋 ～地区を分断する駅舎を新たな交通の拠点ハブへ～

東海工業専門学校金山校 建築工学科 自由設計コース
平田 紳之助



[CONCEPT]

三重県四日市市は、乗降利用者の多い近鉄四日市駅を中心に市街地が形成され、湾岸部の国道23号線を境として、市街地と工業地域が明確に分断されている。今計画地であるJR四日市駅は、近鉄四日市駅と国道23号線に挟まれる形で存在しており、この駅舎によって駅東西の分断がより強調されている。今計画では、JR四日市駅の駅舎をつくりかえ、市街地から国道23号線までをつなぎながら、車の流れを再編することで市内の交通を円滑化し、新たな交通の拠点ハブを整備する。

同時に、地下トンネル内に、「歩行者」、「自動車」、「鉄道」というそれぞれ別々の移動手段の3要素を加える。歩行者空間には、飲食、図書、サービス、物販などの要素を設け公共交通機関利用時の待ち時間に利用しやすい空間を計画することで、交通の拠点でもあり地域の結節点となる拠点を作り出す。

[作品・制作データ]

建築用途	交通施設
敷地所在地	三重県四日市市
制作期間	6ヶ月
使用ソフト	Jw_cad ArchiCAD Photoshop Illustrator

積層の九十九折り -小国町レイヤーを重ねた和紙工房と移住者の住まい-

新潟工科専門学校 建築士学科
加藤 佑翔・三井 梨丘



[CONCEPT]

計画敷地は長岡市小国町上岩田にある長岡市おぐに森林公園の一角に存在していた小さなスキー場跡地。
約83haの園内には、長岡の豊かな自然を感じることできるキャンプサイトやバンガロー、バーベキュー場、さらに日帰り入浴施設「養楽館」があり、幅広い世代の人たちが楽しめる憩いと賑わいの複合施設となっている。しかし少子高齢化や人口流出などの影響で役目を果たし閑散としている園内スキー場。当時の賑わいは今はもうない。
さらにその斜面を利用し、夏場にはゴーカートコースとして利用していた九十九折りの車路は利用方法を見失っている。この地で、当時のような人々の賑わいを取り戻すとともに、小国町の伝統を継承していく道を活用した建築を展開していく。

[作品・制作データ]

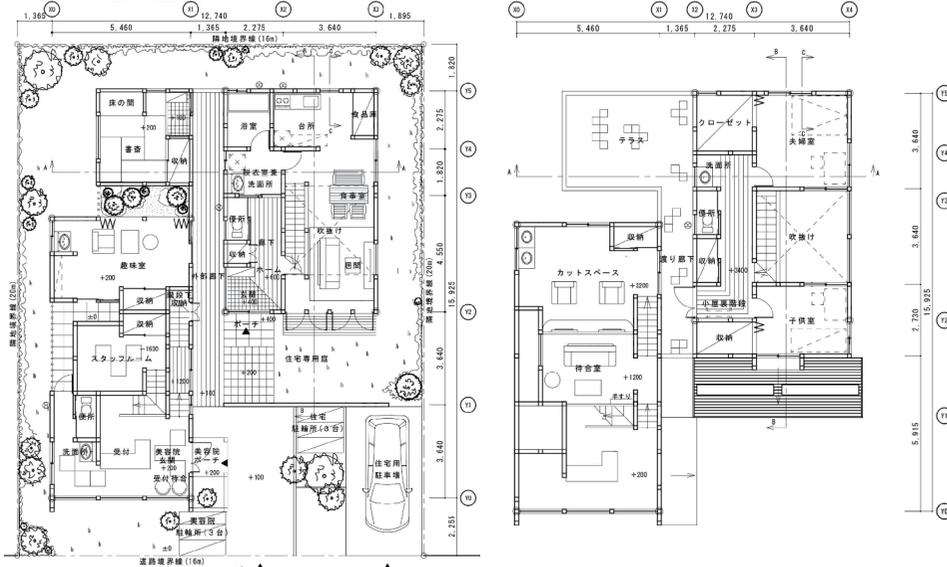
建築用途	集合住宅+小国和紙工房
敷地所在地	新潟県長岡市
敷地面積	1,590.30㎡
建築面積	2,332.56㎡
延べ面積	2,876.40㎡

制作期間	6ヶ月
使用ソフト	AutoCAD Revit Photoshop PowerPoint Twinmotion

海が臨める美容院併用住宅

浅野工学専門学校 建築デザイン科

塙 倫太郎



[CONCEPT]

このプロジェクトは、横浜理容美容専門学校の人たちと共に進めた美容院併用住宅の設計です。湘南の海を望む絶好のロケーションを活かし、地域に愛される美容院と、家族が快適に暮らせる住まいを融合させました。計画地は神奈川県藤沢市鶴沼海岸で、ナチュラルモダンをコンセプトに、開放的な空間を演出。美容院部分は木材を使用した温かみのあるデザインとし、波や砂浜を思わせるカラーパレットを採用しました。住宅部分はスキップフロアを取り入れ、趣味室や書斎を配置。趣味室ではネイルを行えるように設計し、リラックスしながら作業ができる空間としました。リビングは大きな窓を設け、自然光を取り入れながら海を眺められる設計とし、家族の団らんをより豊かにする空間を実現しました。外観はシンプルモダンな白と青を基調とし、海と調和するデザインとしました。訪れる人々に心地よさを提供しながら、家族の暮らしも豊かにする住宅を目指しました。

[作品・制作データ]

建築用途	美容院併用住宅
敷地所在地	神奈川県藤沢市鶴沼海岸
敷地面積	320.00㎡
建築面積	117.39㎡
延べ面積	211.89㎡

制作期間	6ヶ月
使用ソフト	Jw_cad Photoshop Sketchup Twinmotiom

シードバンク

日本工学院八王子専門学校 建築設計科

Zhang Mengxi



ラボバス

コンテナ状の保管ラックを積み重ねることにより、研究者の移動に必要な時間とエネルギー消費を大幅に削減されます。高所に屋根付き橋を設置したり、地上で輸送を移動したり、プラットフォームを昇降したりすることで作業効率が大幅に向上します。

エレベーターホールバス

コアチューブのエレベーターホールは、天井から床まで伸びるアクリル製の種子保管ボックスに囲まれています。空から滝のように落ちてくるエレベーターを降りた瞬間に驚かされます。来場者は立ち止まってさまざまな種子を観察できます。研究者専用階段の休憩台もコアチューブにつながる台まで伸びており、アクリル製の収納箱はコアチューブの外側から開けることができます。

石鹸ワークショップバス

東タワーは主に来場者向けのさまざまな体験の場として利用されています。ここでは、純粋に天然の手作り石鹸やキャンドルを作ることができます。私たちの生活を変える化学製品も、植物を原料として昔ながらの方法で作られています。

[CONCEPT]

現代の食物は、長い年月をかけて品種改良が重ねられ、私たちの食卓を豊かにしてきました。そうした中で、植物の種子を保存し、未来へとつなぐ「バックアップ」の重要性を強く感じ、私は卒業制作のテーマとして「シードバンク」を選びました。シードバンクは、地球温暖化や自然災害、戦争といった様々な要因によって作物が絶滅してしまうことを防ぐ、極めて重要な施設です。ひとたび作物が失われてしまえば、それは人類の文明全体にとって深刻な打撃となりかねません。だからこそ、シードバンクの意義を広く知ってもらい、食糧を確保することの難しさや、地球の未来に対する危機意識を高めることが必要だと考えています。今回設計するシードバンクは、単に種子を保存する機能にとどまらず、植物や自然を愛する人々が集い、学び、楽しむことができる場所を目指します。植物の大切さや環境保護の意識を高め、多くの人々が自然とのつながりを再認識できる場となることを願っています。

[作品・制作データ]

建築用途	シードバンク
敷地所在地	チベット セリン湖畔
敷地面積	4,820.55㎡
建築面積	980.16㎡
延べ面積	2,720.94㎡

制作期間	6ヶ月
使用ソフト	Illustrator Photoshop ArchiCAD Twinmotion

リニアなすみかとぼっちなぼっち ～地方におけるこれからの暮らし～

日本工学院専門学校 建築学科 建築設計コース

須藤 啓介



[CONCEPT]

高度経済成長期に地価の高騰を受け、都市から郊外に向けて無秩序かつ無計画に農地の市街化・宅地化が横行しました。時は経ち、交通の便が悪い地方では人口の減少・高齢化により、空き家や空き地が目立つスポンジ化が進んでいます。その結果、農業規格の細い道では交通事故が起き、農地の中にはいくつもの廃墟が建ち景観を害し、様々な問題を引き起こしています。そこで今計画では、分散したミニ分譲地の集約先と企業の社宅兼デモ施設としての集合住宅を、防風林の一部として設計しました。文化的農業景観の保全と、防風林の機能回復のためのリニアなボリューム・木造ラーメン構造と独自のパネル構造による空間の自由化。そして、居住者の居なくなったミニ分譲地を看取り、新たな街の発展のためのアグリテック企業の社屋と道の駅として「ぼっち」を設計しました。外観は、既存住宅の躯体を受け継ぎ、落花ぼっちを彷彿とさせるビジュアルとしました。

[作品・制作データ]

建築用途	集合住宅・社屋兼コミュニティ施設	
敷地所在地	千葉県八街市沖	
敷地面積	1,000㎡	1,583.75㎡
建築面積	832.15㎡	1,092.14㎡
延べ面積	2,545.429㎡	1,167.58㎡

制作期間	6ヶ月
使用ソフト	Vectorworks Photoshop Illustrator

町田デザイン&建築専門学校 建築デザイン科
山田 開



01 敷地情報 所在地と周辺

計画地は愛知県名古屋市ささしまライブ駅前を走る名古屋高速の高架下。全長は幅約180メートル奥行35メートル中川運河ため池前に位置する周辺にはささしまライブ駅前広場をはじめとする公共公園のほか、愛知大学名古屋キャンパス図書館中京テレビ放送局があり計画地はその奥クルーズ船乗り場の手前である。駅前にはグローバルゲート、ペDESTリアンデッキと高層建築が並び、やや圧迫された雰囲気を感じさせるが両側中川周辺は土地も開けており広がった眺望が望める。

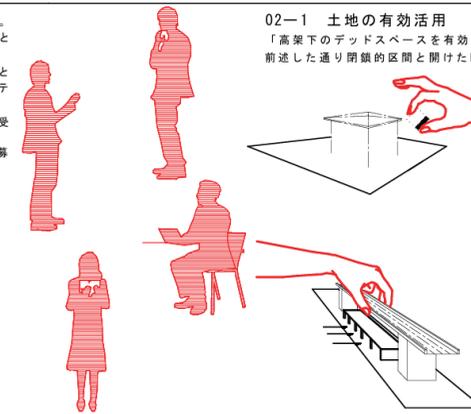


02 システム 循環するコミュニケーションとツール

発展性、社会性の観点から休息の取れる広場のような建築像を提案した。「街の本屋さん」という名目のこのスペースは、カフェテリアと図書館としての用途を併せ持った空間として完成した。自宅の読まなくなった本、誰かに読んでほしい本、持ち寄ってもらうことにより、本と建築を通じて人々と地域との交流を図る。無償で回るシステムの元成り立っているため管理も最小限に留める事ができる。近くにある名古屋キャンパスの図書館と連携し、不要になった本を譲り受けることでなくなる恐れもない。また、管理いらずとは放置という意味ではなく、清掃はボランティアを募る。作業後はカフェから無料券を配布し楽しんでもらうことでボランティア活動してくれる方もお客様ということである。

02-2 ツール

「ラフにフラット立ち寄れる。」仕事の合間近くにあるクルージングの待ち時間待ち合わせ場所として人々の隙間に入り込む。生活の隙間に入り込む本と掛け合わせた。気になった本や貸し借りで人々の交流の輪が広がることを願っている。

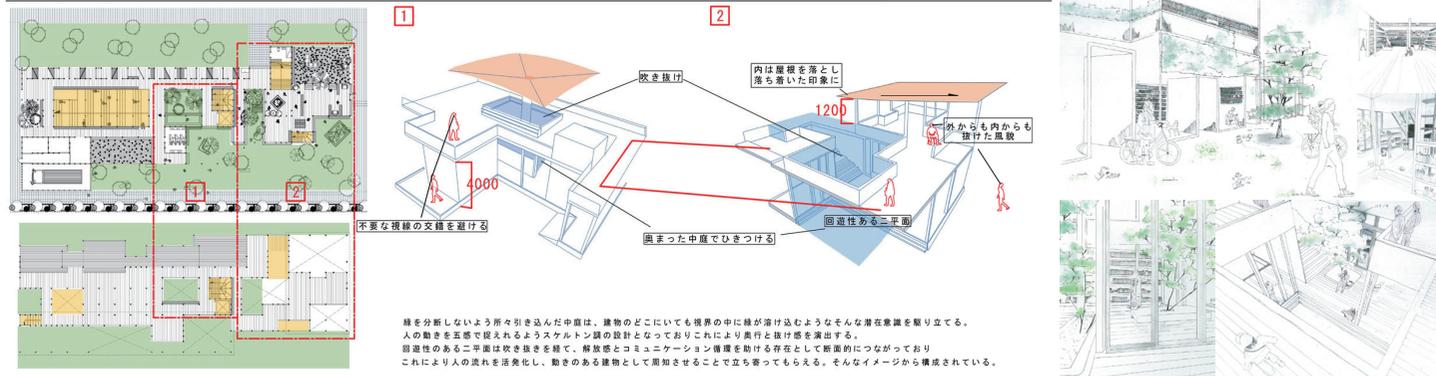


02-1 土地の有効活用

「高架下のデッドスペースを有効活用する」というコンセプトのもと、高さ14mの高架の下に四角い箱を挿入する。前述した通り閉鎖的区間と開けた眺望の混じった空間のため空間を隔てるのは壁ではなく柱であるべきだと感じた。そのため今回の計画では、構造上無理のない間隔で柱スパンを設けることによりこの構造を維持している。

- step1
高架を外す。
通常建築には屋根がつきものだが、今回の計画地には高架があるためこれを雨除け用途の屋根として使う。
- step2
駅、国道に面した方向からの視線を意識し、奥行を期待させる程よい抜け感を作る。
暗くなりながらスペースが多いため所により穴を開けるイメージで、光を確保するよう務める。
- step3
高架を掛ける。
上面高速の騒音にも配慮し高すぎない位置に人の移動空間を設ける。

05 ダイアグラム 関係性



[CONCEPT]

発展性、社会性の観点から休息の取れる広場のような建築像を提案した。「街の本屋さん」という名目のこのスペースは、カフェテリアと図書館としての用途を併せ持った空間として完成した。自宅の読まなくなった本、誰かに読んでほしい本、持ち寄ってもらうことにより、本と建築を通じて人々と地域との交流を図る。無償で回るシステムの元成り立っているため管理も最小限に留める事ができる。また、管理いらずとは放置という意味ではなく、清掃はボランティアを募る。人の生活のような決まった役割や、住所というものがココには存在しない。良くも悪くも非日常に出会える。自分だけの場所、心休まる間隔に集中できるスペース。人工芝「モノの住所」とともに新しい出会いを見つけられたらいいと思う。

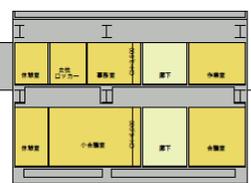
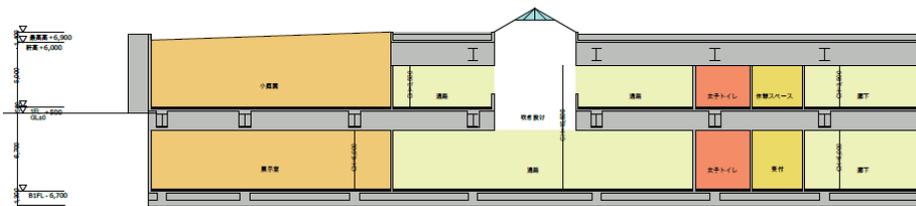
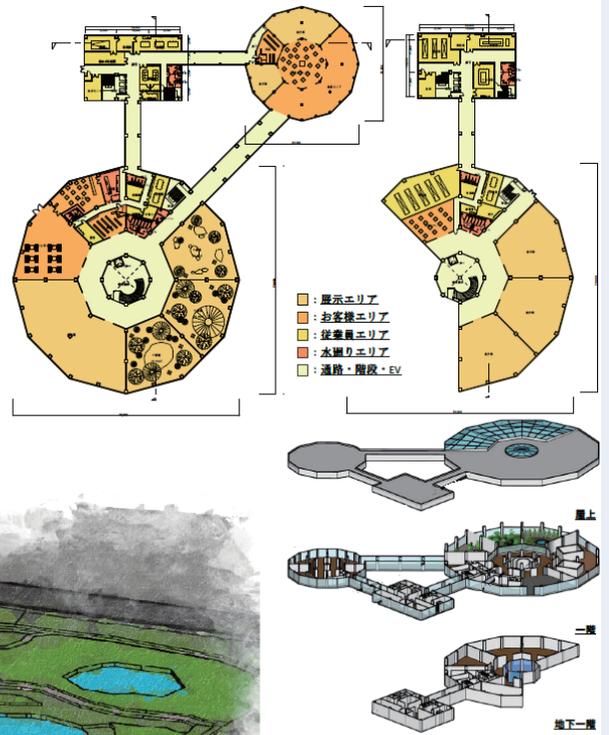
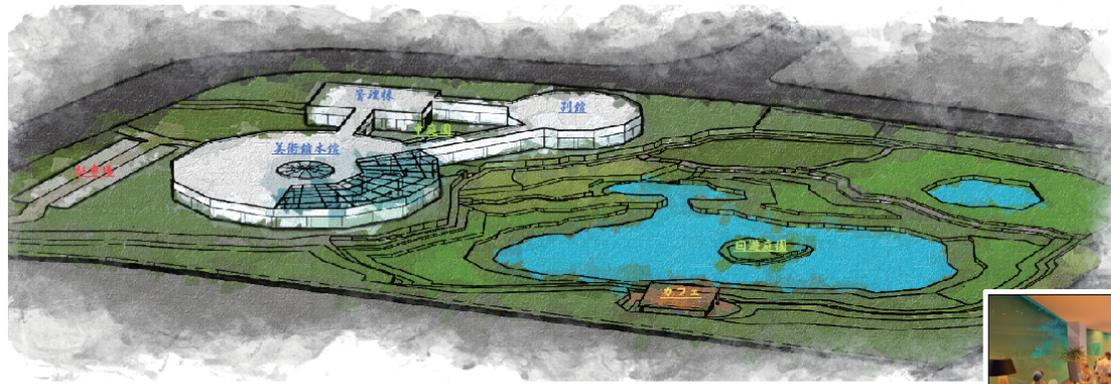
[作品・制作データ]

建築用途 カフェテリア兼図書館
敷地所在地 愛知県名古屋

制作期間 6ヶ月
使用ソフト Jw_cad Photoshop
Illustrator

芝庭園美術館

専門学校東京テクニカルカレッジ 建築科
高山 仁



[CONCEPT]

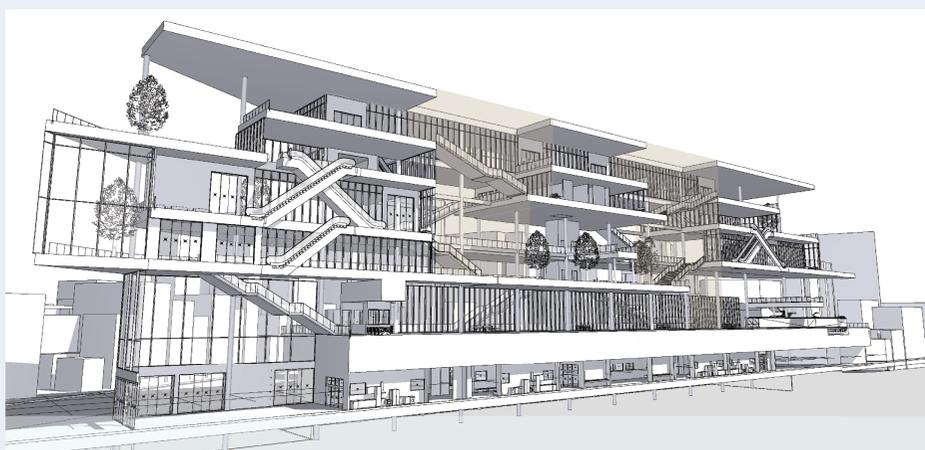
コロナが収束後の円安の影響禍にある日本では、外国人観光客のインバウンド率は上昇傾向にある。外国人観光客が日本に観光に来る目的としては日本の食事文化、自然などの景観が挙げられる。庭園や、庭園に関連する作品を展示することを目的とした美術館を設計することにより、外国人観光客に日本の庭園文化やその美しさについてさらなる理解を深めてもらい、日本の伝統に触れ、より日本を好きになってもらい、リピーターとしての再来日、全国の様々な庭園へ訪れてもらうきっかけになることを期待する。また、美術館周辺の飲食店や小売店に観光客を呼び込むことができ、それによって地域経済を回すことにも繋がると考えている。

[作品・制作データ]

建築用途	庭園美術館
敷地所在地	東京都港区芝公園3丁目
敷地面積	49906.65㎡
建築面積	6431.25㎡
延べ面積	9166.31㎡
制作期間	4ヶ月
使用ソフト	AutoCAD SketchUp Layout

読売理工医療福祉専門学校 建築科

白井 勝也



[CONCEPT]

浅草は訪日外国人観光客や国内観光客が多く訪れ、今後も多くの観光客の来訪が予想されている。その中で東武浅草駅は、東京メトロ銀座線、都営浅草線と接続するターミナル駅である。今後の観光人口の増加と現状の駅の役割から、これまでの課題を解消する新駅を計画した。

駅ホームは2F部分となる。電車は4線が乗り入れ可能でホーム数は3である。南側と北側に改札口を設け、北側へ電車は発車する。駅上部には最上階まで伸びる吹抜とそれ以外の部分では中庭が存在する。

[作品・制作データ]

建築用途	駅舎+商業施設
敷地所在地	東京都台東区
敷地面積	5,438㎡
建築面積	3,845㎡
延べ面積	15,705㎡

制作期間	6ヶ月
使用ソフト	ArchiCAD Photoshop Illustrator

第二の道

青山製図専門学校 建築学科 住宅設計デザイン科
友田 晴仁



[CONCEPT]

本設計では、1960 年ごろから急激に増加し続けている高齢化に伴い、日本で起きている問題に対して設計を行います。例として認知症増加、引きこもりなど心の健康が保たれない高齢者が多い事があげられます。これらは独居高齢者の増加、年金支給額減少、日々の楽しみがないといった、ふさぎ込むような日々の暮らし方に原因があると言えます。解決策としてシルバー人材として働き楽しみながら暮らす方法がありますが、職種の選択肢が少ないことや、仕事内容が工場での単純作業やトイレ清掃など過酷で楽しみのないものとなり、生きがいには繋がらないものが多いことが分かりました。お年寄りがシェアハウスという形で駐在し、外国人観光客が訪れ、ホームステイ先のような感覚で泊まることができる宿泊施設と文化体験ができる場を設け、新しいシルバー人材の第二の人生の選択肢として先駆けとなる複合施設を提案します。

[作品・制作データ]

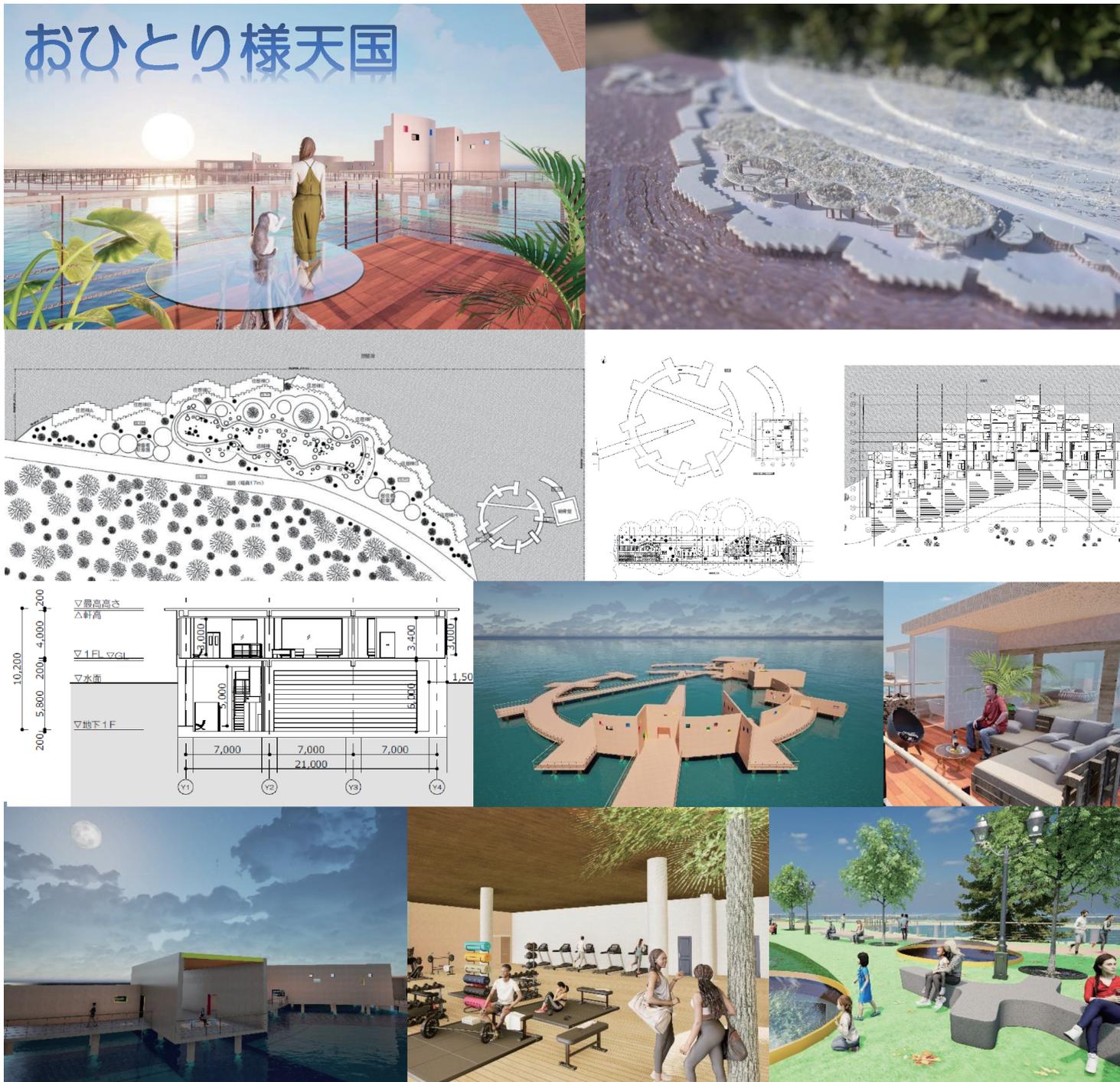
建築用途	複合コミュニティ施設
敷地所在地	和歌山県那智勝浦町
敷地面積	6500.00㎡
建築面積	2135.00㎡
延べ面積	2765.00㎡

制作期間	6ヶ月
使用ソフト	Vectorworks Twinmotion Photoshop Illustrator

おひとり様天国

中央工学校 建築設計科

廣瀬 有香



[CONCEPT]

2050年、全世帯の1/5が一人暮らしの高齢者世帯になると言われている。年を重ねるにつれ、不安は増大していく。そんな一人で生きていく様々な不安を「楽しみ」に変える場所。「人生はご褒美」をコンセプトに、おひとり様たちがちょうど良い距離のご近所関係を築きながら、徒歩圏内で最低限の生活が完結でき、より自由に楽しいシングルライフを送ることが出来る「新しい終の棲家」を提案する。煩わしい日常生活の負担と不安を軽減し、より身軽にアクティブに生きる。そして人生を終えた後、滋賀県民が心から愛する琵琶湖の中の納骨堂で、永遠に琵琶湖に抱かれ続ける。

[作品・制作データ]

建築用途	集合住宅・店舗・納骨堂
敷地所在地	滋賀県高島市
敷地面積	114,629.17㎡
建築面積	33,804.49㎡
延べ面積	27,062.50㎡
制作期間	8ヶ月
使用ソフト	ArchiCAD Illustrator

陶彩の街 ～東北最古の継承～

国際情報工科自動車大学校 建築デザイン科

宗像 孝幸 湯浅 結衣 國分 美玲



1 コンセプト

福島県西部に位置する会津美里町は、豊かな自然と歴史を誇る地域だが、伝統工芸である「会津本郷焼」の衰退が課題となっている。この地で生まれた会津本郷焼は、東北最古の焼き物として400年以上にわたりその伝統が受け継がれてきた。しかし、後継者不足や需要の減少などにより、その存続が危ぶまれている。その原因の一つとして、人口減少により地域の商店などが閉鎖し、住民が集い交流する場が減少したことによるコミュニティ機能や地域活力の低下が挙げられる。この問題に対する解決策として、地域と世界をつなぐ拠点となる施設を提案する。会津本郷焼の衰退という問題に対しては、アーティストレジデンスの活用を考えた。国内外からアーティストを一定期間招いて、滞在中の活動を支援できる施設を設計する。この施設を通して、アーティストに会津本郷焼はもともと日本の魅力を感じてもらい、世界に発信してもらうことで、会津本郷焼の認知度を国際的に高めたいと考えた。これにより、新たな需要を生み出し、伝統産業の再生・発展を図る。本設計によって、会津本郷焼の魅力を世界へ発信し、地域住民同士や旅行者と地域住民の交流を通じて、会津美里町全体の活性化を目指す。



2 計画地・配置計画

本プロジェクトの計画地は、会津本郷焼の産地で現在も13の窯元が点在している会津美里町本郷。毎年夏に開かれる「せと市」というイベント会場に計画地。「せと市」では、会津本郷焼の窯元や様々な産地の窯元の直売店が多く並び、当日は県内外から約3万人が会津本郷を訪れるなど、夏の風物詩となっている。かつては小学校があったこの場所は、現在では建物もなく、「せと市」を催えて人が集まる機会がほとんどない。そのため、この敷地を利用して、地域の新たな交流拠点を創出することを計画した。また、計画地の周辺には路地が広がっているため、地域に溶け込むように、施設を路地の延長のように配置した。これにより、自然と人々が入り込み集まる空間を作り出すことを目指した。



カフェ
受付機能のあるカフェ。住民も集うカフェでのチェックインは、単なる手続きにとどまらず、地元の人々と交流を持ちながら、会津美里町での滞在をスタートすることができる。賑わい、交流の拠点となる。

食堂
宿泊者だけでなく地域の方も利用、休憩処にもなるベンチも外に開かれるように配置し、賑やかな空間で交流が育まれる。また、そこで提供される料理は本郷焼の器で振る舞われ、実際に使用してもらうことで食事をより楽しみながら豊かな時間を過ごすことができる。

客室
宿泊のための部屋は、和室を採用。畳、布団、床の間など日本独自の様式を体験し、和室の魅力や日本文化に触れる機会を設けた。自分が制作した陶器や購入した陶器をより愛着を持って使ってもらえるスタートの場となる。

ショップ
13ある会津本郷焼の窯元の作品を販売。ここでは唯一無二の作品が展示・販売され、手に取りながら見て触れて、自分が気に入った陶器を購入することができる。宿泊者だけでなく、地域住民や観光客にも立ち寄ってもらい購入してもらうことで世界への認知を広める。

せと市会場

登り窯
会津美里町に現存する唯一の登り窯を再現。窯元の方と旅行者で協力して火の番をすることで陶器・磁器を焼き上げる。また、冬場は暖を取れる空間ともなり、共に創作活動を行い、交流の機会へと繋げる。

工房
旅行者が実際に窯元の方から陶器について学びながら陶器の制作を体験する。ここでは、ろくろ成型から焼成、華入れまで一連の流れを体験することができ、世界に一つだけのオリジナルの陶器を作ることができる。

ギャラリー
旅行者が制作した焼き物を一時的に展示。作品が一定期間ごとに入れ替わり、多彩な作品が陳列されることで陶器の新たな楽しみや可能性を感じることができる。また、地域住民も定期的に訪れて日々新しい作品を楽しむ。

平面図 5=1:400

[CONCEPT]

福島県会津美里町では、東北最古の焼き物である会津本郷焼の衰退が課題となっている。その背景には、人口減少による商店の閉店や住民交流の場の減少があり、地域コミュニティ機能の低下も一因となっている。そこで本設計では、会津本郷焼の周知と地域活性化を目的に、工房・客室・カフェを備えたアーティストレジデンスを提案する。中長期滞在する外国人旅行者が制作体験を通じて焼き物の技術や歴史を学び、地域住民との交流を深める場を創出。地域と世界がつながる拠点として、文化の継承と発信を担い、地域内外に会津本郷焼の魅力を広く伝えるとともに、町全体の活性化を目指す。

[作品・制作データ]

建築用途	複合コミュニティ施設
敷地所在地	福島県会津美里町
制作期間	6ヶ月
使用ソフト	Archicad Photoshop Illustrator

青山建築デザイン・医療事務専門学校 建築学科
三上 康祐

SYNC

自然と同調する、自然への入り口

□CONCEPT / コンセプト

釧路には、国内最大の面積を誇る釧路湿原がある。この緑に恵まれた土地に生きる中で、いわゆる”自然保護”という表現に違和感を覚えることがあった。それは自然保護の実態が、単なる”ヒトと自然の隔離”になってしまっていないか、という疑問だった。真に自然保護を成すには多数からの関心と協力が不可欠だが、単なる隔離ではその関心を抱きキッカケすら奪ってしまわないだろうか。これまでの自然保護は、率先して活動に動かしむ人々はいれど、無関心の側へ変化を促すものではなかった。今自然保護に必要なのは、その”変化を促す力”だと考える。本計画では、自然の一部を切り拓いてでもヒトが自然に触れる場を提供し、関心を持ってもらう、そんな”新たな自然保護の切っ先を担う建築”を提案したい。

□SITE / 敷地

計画地は湿原南東部を横断する”釧路右岸堤防線道路”沿いとする。この道路は釧路において新たな中心地へ遷移しつつあるセチリ太、昭和地区に挟まれる形で接続しており、湿原内でも釧路市、釧路町双方からのアクセスが比較的容易である。そのため、後述する研究利用の拠点とし易い。

□APPROACH / 設計の方針

主たる用途は”湿原の形成・生態系に関する展示”及び”景観そのものを展示対象としたギャラリー”である。これを中核とし、更に”目的”と”機能”を付加した3つのレイヤーからなる構成を行う。
1. 展示
館内他、景観の展示は本館と接続した半地下の廊と、その内側を巡る木道をランドスケープとして設定。又、地元アーティストや工芸作家の作品も展示する。
2. 研究
環境省は「釧路湿原は住民、市民団体、民間企業、関係行政機関が多様な形で関わっているが、そのような認識を基本とした交流・連携の実例は極めて少ない」との評価を下している。こうした現状を鑑み、官民間が湿原の現地調査の拠点とできる研究施設としての機能を与える。
3. 宿泊
可能な限りアプローチし易い立地を選定したが、高気圧に足る選定には敷居が高い。そのため未踏する目的として、宿泊施設とレストランを併設する。

□SITE PLAN / 配置図

当該地域は都市計画区域外であるため、ランドスケープも含め堤防線道路より北東約420,000㎡の範囲を敷地とする。

敷地周辺は高低差のない平坦な地形で、小規模な沼と、釧路川の支流が流れる。

□SINK-SYNC / 沈み、溶け込む

人間大のファサードはピロティやガラスのグリッドといったエッセンスを取り入れ、明確な人工物として構える。そして、陸と勾配のコンピネーション降下する屋根は地面と接続し、建物全体が地中へ埋まっていく様な形状とした。また、屋根部に緑化を施すことで、周囲の展望台や上空から望む外観が、周囲と一体化して見える。

□LAYERS / 各レイヤー

宿泊
LOGGING

研究
RECR

展示
EXHIBITION

□PLAN LIST 2F

1. Kitchen
2. Restaurant
3. EV hall
4. Linen room

□PLAN LIST 1F

1. Atrium
2. Entrance hall
3. Lounge
4. Reception
5. Cloak room
6. Office
7. resting room
8. Linen room
9. MCR
10. LAB-1

□PLAN LIST BF

1. EV hall
2. Museum shop
3. Exhibition hall
4. Work shop
5. Reception A Office
6. TMP storage room
7. Documentation room
8. Storage room

[CONCEPT]

釧路には、国内最大の面積を誇る釧路湿原がある。この緑に恵まれた土地に生きる中で、いわゆる”自然保護”という表現に違和感を覚えることがあった。それは自然保護の実態が、単なる”ヒトと自然の隔離”になってしまっていないか、という疑問だった。真に自然保護を成すには多数からの関心と協力が不可欠だが、単なる隔離ではその関心を抱きキッカケすら奪ってしまわないだろうか。これまでの自然保護は、率先して活動に動かしむ人々はいれど、無関心の側へ変化を促すものではなかった。今自然保護に必要なのは、その”変化を促す力”だと考える。本計画では、自然の一部を切り拓いてでもヒトが自然に触れる場を提供し、関心を持ってもらう、そんな”新たな自然保護の切っ先を担う建築”を提案したい。

[作品・制作データ]

建築用途	展示を主とする複合施設
敷地所在地	釧路市/釧路町(釧路湿原)
制作期間	6ヶ月
使用ソフト	AutoCAD Revit Twinmotion Photoshop Illustrator

日本工学院北海道専門学校 建築学科

本川 正枝



外観



2 F 一般書架



1 F 児童書架



3 F 個室



3 F 作業スペース



3 F 作業スペース



2 F ブラウジングルーム

3 F プラネタリウム



1 F いきもの館

[CONCEPT]

この図書館のコンセプトは、一度にたくさんの体験ができ、ひとりひとりに合った過ごし方ができる空間です。外観はマカロンをイメージしました。全体的に丸くすることで柔らかい印象でゆったり滞在できる空間を心掛けました。図書館だけではなくカフェや水中トンネルの先にあるいきもの館（水族館、爬虫類館）、多目的ホール、プラネタリウム、個室などがあり、利用者に合った様々な過ごし方ができる図書館になるよう心掛けました。

[作品・制作データ]

建築用途	複合施設(図書館/博物館)
敷地所在地	北海道登別市
敷地面積	8,850.00㎡
建築面積	1,620.00㎡
延べ面積	3,743.00㎡

制作期間	6ヶ月
使用ソフト	GLOBE Architect

全国専門学校建築教育連絡協議会 会員校一覧

学校名		所在地	電話番号
日本工学院北海道専門学校	〒059-8601	北海道登別市札内町184-3	0143-88-0888
青山建築デザイン・医療事務専門学校	〒060-0005	北海道札幌市中央区北5条西14丁目	011-281-4155
国際情報工科自動車大学校	〒963-8811	福島県郡山市方八町2-4-15	024-956-0030
筑波研究学園専門学校	〒300-0811	茨城県土浦市上高津1601	029-822-2452
読売理工医療福祉専門学校	〒112-0002	東京都文京区小石川1-1-1	03-3868-0471
中央工学校	〒114-8543	東京都北区王子本町1-26-17	03-3906-1211
日本工学院専門学校	〒144-8655	東京都大田区西蒲田5-23-22	03-3732-1367
青山製図専門学校	〒150-0032	東京都渋谷区鶯谷町7-9	03-3462-1441
専門学校東京テクニカルカレッジ	〒164-8787	東京都中野区東中野4-2-3	03-3360-8881
東京工学院専門学校	〒184-8543	東京都小金井市前原町5-1-29	042-387-5500
日本工学院八王子専門学校	〒192-0983	東京都八王子市片倉町1404-1	042-637-3179
町田デザイン&建築専門学校	〒194-0022	東京都町田市森野1-27-18	042-725-3465
浅野工学専門学校	〒221-0012	神奈川県横浜市神奈川区子安台1-3-1	045-421-0403
新潟工科専門学校	〒950-0932	新潟県新潟市中央区長潟2-1-4	025-287-3911
伝統文化と環境福祉の専門学校	〒952-1209	新潟県佐渡市千種丙202-1	0259-61-1122
東海工業専門学校金山校	〒460-0022	愛知県名古屋市中区金山2-7-19	052-332-6211
京都建築大学校	〒622-0041	京都府南丹市園部町二本松1-17	0771-63-1120
大阪工業技術専門学校	〒530-0043	大阪府大阪市北区天満1-8-24	06-6352-0091
大阪建設専門学校	〒530-0052	大阪府大阪市北区南扇町3-16	06-6314-0261
修成建設専門学校	〒555-0032	大阪府大阪市西淀川区大和田5-19-30	06-6474-1644
中央工学校OSAKA	〒561-0872	大阪府豊中市寺内1丁目1-43	06-6866-0800
日本工科大学校	〒672-8001	兵庫県姫路市兼田383-22	079-246-5888
岡山理科大学専門学校	〒700-0003	岡山県岡山市北区半田町8-3	086-228-0383
岡山科学技術専門学校	〒700-0032	岡山県岡山市北区昭和町8-10	086-255-7171
広島工業大学専門学校	〒733-8533	広島県広島市西区福島町2-1-1	082-295-5111
麻生建築&デザイン専門学校	〒812-0016	福岡県福岡市博多区博多駅南1丁目11-13	092-415-2292
福岡建設専門学校	〒812-0053	福岡県福岡市東区箱崎6-15-34	092-651-2516
サイ・テク・カレッジ美浜	〒904-0115	沖縄県中頭郡北谷町美浜1-5-16	098-926-1800

会員校28校(都道府県・郵便番号順)



協賛企業・団体一覧

企業・団体名	所在地	電話番号
株式会社 アイ工務店	〒104-0061 東京都中央区銀座 8-13-1 銀座三井ビルディング 1F	03-6260-6048
株式会社 イトーキ	〒103-6113 東京都中央区日本橋 2-5-1 日本橋高島屋三井ビルディング	03-6910-3895
株式会社 今西組	〒543-0001 大阪府大阪市天王寺区上本町 6 丁目 9 番 21 号	06-6779-3361
株式会社 sai 総合企画	〒101-0062 東京都千代田区神田駿河台 1-7-7 3F	03-3294-7177
大林道路株式会社	〒108-6031 東京都港区港南 2-15-1 品川インターシティ A 棟 31 階	03-3295-8863
川口土木建築工業株式会社	〒332-0012 埼玉県川口市本町 4 丁目 11 番 6 号	048-224-5111
技研施工株式会社	〒107-0062 東京都港区南青山 7-3-1	03-3407-2395
工藤建設株式会社	〒225-0003 神奈川県横浜市青葉区新石川四丁目 33 番地 10	045-911-5300
建築生産設計協力会	〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-22-37-307	03-3365-2004
株式会社 国際総合計画	〒950-0916 新潟県新潟市中央区米山 2-7-3 ITP ケヤキビル	025-241-8588
株式会社 佐伯工務店	〒331-0823 埼玉県さいたま市北区日進町 1 丁目 319 番地	048-665-4440
坂田建設株式会社	〒130-8522 東京都墨田区本所 3-21-10	03-5610-7820
株式会社 佐沼建築システムデザイン	〒160-0023 東京都新宿区西新宿 7-22-37-307	03-3365-2004
三友建設株式会社	〒192-0041 東京都八王子市中野上町 4 丁目 39 番 2 号	042-625-7661
公益財団法人 住宅リフォーム・紛争処理支援センター	〒102-0073 東京都千代田区九段北 4-1-7 九段センタービル 3 階	03-3261-4567
公益社団法人 商業施設技術団体連合会	〒108-0014 東京都港区芝 5 丁目 26 番 20 号 建築会館	03-3453-8103
成友興業株式会社	〒104-0031 東京都中央区京橋 2-13-10 京橋 MID ビル 4 階	03-3538-4111
株式会社 総合資格	〒163-0557 東京都新宿区西新宿 1-26-2 野村ビル 3F	03-3340-5673
株式会社 染谷工務店	〒303-0022 茨城県常総市水海道淵頭町 2982	0297-22-2871
株式会社 第一ヒューテック	〒160-0004 東京都新宿区四谷 1 丁目 23 番地	03-3359-8811
大豊建設株式会社	〒104-8289 東京都中央区新川 1-24-4	03-3297-7001
株式会社 大米建設	〒901-0145 沖縄県那覇市高良 3 丁目 1 番地 1	098-975-9090
TAC 株式会社	〒101-8383 東京都千代田区神田三崎町 3-2-18 TAC 本社ビル 4F	03-5276-8918
田中土建工業株式会社	〒160-0003 東京都新宿区四谷本塩町 14 番 1 号	03-3353-2131
TTC 株式会社 タケダ事業本部	〒132-0034 東京都江戸川区小松川 3-4-1 エクセルビル 3F	03-3638-1281
徳倉建設株式会社	〒460-0003 愛知県名古屋市中区錦 1 丁目 18 番 22 号 名古屋 AT ビル 6 階	052-211-8735
飛鳥建設株式会社	〒108-0075 東京都港区港南 1-8-15 W ビル 5F	03-6455-8308
ドラパス株式会社	〒114-0023 東京都北区滝野川 7-26-7	03-3916-3201
株式会社 内藤ハウス	〒407-8510 山梨県韮崎市円野町上円井 3139	0551-27-2131
中野建設株式会社	〒105-0014 東京都港区芝 3 丁目 42 番 9 号	03-3456-4191
株式会社 ニチボウ	〒141-0022 東京都品川区東五反田 1-9-5	03-3444-6241
一般社団法人 日本インテリア設計士協会	〒541-0059 大阪市中央区博労町 1-6-14	06-6262-1488
株式会社 フジタ	〒151-8570 東京都渋谷区千駄ヶ谷 4-25-2	03-3796-2214
ベクターワークスジャパン株式会社	〒162-0814 東京都新宿区新小川町 6-29 アクロポリス東京 702	050-1782-7345
馬淵建設株式会社	〒232-8558 神奈川県横浜市南区花之木町 2-26	045-712-4842
武藤工業株式会社	〒154-8560 東京都世田谷区池尻 3-1-3	03-6758-7123
株式会社 ライフ設計事務所	〒114-0013 東京都北区東田端 1-7-3 田端フクダビル 6F	03-3810-0830
株式会社 ローヤルエンジニアリング	〒171-0021 東京都豊島区西池袋 4-24-4	03-3959-7431

※五十音順



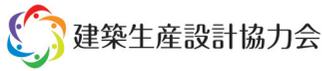
株式会社 **sai** 総合企画
一級建築士事務所



OBAYASHI ROAD



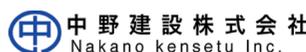
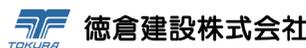
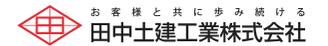
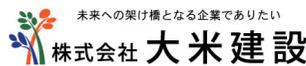
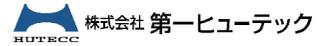
工藤建設株式会社



SANUMA



公益社団法人 商業施設技術団体連合会



北海道

- 日本工学院北海道専門学校
- 学校法人 北海道観光学園 国土交通大臣認定校 日本病院会認定校 職業実践専門課程認定校
青山建築デザイン・医療事務専門学校

福島

- 学校法人 国際総合学園
WIZ 国際情報工科自動車大学校

新潟

- NIT 新潟工科専門学校
- SADO 信濃文化・環境福祉専門学校

愛知

- 学校法人 電波学園
東海工業専門学校金山校

京都

- KASD 学校法人 二本松学園
京都建築大学校

兵庫

- JEC 日本工科大学校
Japan Engineering College

茨城

- TIST 筑波研究学園専門学校
Tsukuba Institute of Science & Technology

東京

- 学校法人 読売理工学院
読売理工医療福祉専門学校
- 中央工学校
- 日本工学院専門学校
- 夢をカタチに 未来を創る
AOYAMASEIZ
青山製図専門学校
- TTC 専門学校
東京テクニカルカレッジ
- 東京工学院専門学校
- 日本工学院八王子専門学校
- mdc 町田デザイン&建築専門学校
Machida Design College

大阪

- 学校法人 福田学園
大阪工業技術専門学校
OSAKA COLLEGE OF TECHNOLOGY
- OKS 学校法人 西沢学園
大阪建設専門学校
- 修成建設専門学校
- 学校法人 中央工学校
中央工学校 OSAKA

神奈川

- 学校法人 浅野工学園
浅野工学専門学校

岡山

- RiSEN 岡山理科大学専門学校
- KAGISEN 岡山科学技術専門学校

広島

- 広島工業大学専門学校

福岡

- 学校法人 麻生塾
Design your future 麻生専門学校グループ
- FCC 福岡建設専門学校
FUKUOKA CONSTRUCTION COLLEGE

沖縄

- 学校法人 さいてくカレッジ
サイ・テク・カレッジ

全国専門学校建築教育連絡協議会



DIPLOMA 2025 卒業作品集・活動報告
2025年8月 発行

発行元 全国専門学校建築教育連絡協議会
<http://zensenkenkyo.jp/>
事務局 専門学校東京テクニカルカレッジ
〒164-8787 東京都中野区東中野4-2-3 TEL 03-3360-8881
制作 青山製図専門学校
〒150-0032 東京都渋谷区鶯谷町7-9 TEL 03-3463-0901